

小児の歯科診療の基礎

責任者名：白川 哲夫

学期：後期

対象学年：3年

授業形式等：講義

◆担当教員

白川 哲夫(小児歯科学 教授)

武井 浩樹(小児歯科学 助教)

内田 淳(小児歯科学 兼任講師)

土岐 志麻(小児歯科学 兼任講師)

松野 俊夫(小児歯科学・医療人間科学 兼任講師)

◆一般目標 (GIO)

- ①小児歯科医療を全身的視点から理解するために、小児の身体的・心理的・生理的な特徴について知る。
- ②小児の発達に合わせた歯科医療を理解するために、咬合発育段階に基づく歯科疾患の診断・治療および予防法を身につける。
- ③小児の全身疾患に随伴する歯科病変を理解するために、小児期にみられる疾患の特徴と症状について知る。

◆到達目標 (SBO s)

- ①小児の歯科診察にあたっての基本的対応法を説明できる。
- ②小児歯科患者に対する薬物療法および薬用量の算定方法を説明できる。
- ③乳歯抜去、ラバーダム法、乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法について説明できる。
- ④小児期における齲蝕ならびに歯周疾患の予防法を保護者に説明できる。
- ⑤口腔習癖と歯列・咬合異常の関係ならびに口腔習癖の除去方法を列挙できる。
- ⑥心身障害の種類と随伴する顎口腔所見ならびに障害児への対応方法を説明できる。

◆評価方法

12月2日に対面で実施する平常試験の成績を基本(60%)とし、遠隔での平常試験(20%)ならびに課題レポート(20%)の成績を加味して総合評価する。

平常試験を行った次の講義時間において、理解度が不十分な箇所について補足説明する。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
白川 哲夫	月曜日 17:00~18:00 小児歯科学講座 教授室	shirakawa.tetsuo@nihon-u.ac.jp	
武井 浩樹	金曜日 17:00~18:00 小児歯科学講座 研究室	takei.hiroki@nihon-u.ac.jp	

◆授業の方法

教科書および各学習項目に対応したスライドおよび配付資料を用いた講義，ならびに平常試験による知識の確認を行う。

【実務経験】

（白川哲夫）小児歯科学講座における教員歴が34年。小児歯科臨床経験が38年。小児歯科医療全般について診療・指導実績がある。

（武井浩樹）小児歯科学講座における教員歴が7年。小児歯科臨床経験が12年。小児歯科医療全般について診療・指導実績がある。

（土岐志麻）小児・障害児歯科臨床経験が25年以上。障害児を含めた小児歯科医療全般について診療実績がある。

（内田 淳）小児・障害児歯科臨床経験が30年以上。おもに障害児・者について歯科診療実績がある。

（松野俊夫）医学部小児科における教員歴が30年以上。小児の精神発達についての教育・診療実績がある。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	小児歯科学 第5版	白川哲夫, 飯沼光生, 福本 敏	医歯薬出版	2017

◆DP・CP

[DP1]

コンピテンス：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

コンピテンシー：医の尊厳を理解し，法と倫理に基づいた医療を実践するために必要な豊かな教養と歯科医学の知識を修得できる。

[CP1]

歯科医学と医療倫理の基礎的知識を修得し，社会人としての品格と医療人としての自覚を身につける。

[CP8]

各学年における学修で得た歯科医学の知識，技術および省察力をもとに，歯科医師として生涯にわたり学習する姿勢を身につける。

◆準備学習(予習・復習)

シラバスに記載されている授業項目について，事前に教科書ならびに配布資料（WEB シラバスからダウンロード）を読んで概要を理解しておくこと。また授業中に示された重要事項を中心にノートテイキングを行い復習に役立てること。

◆準備学習時間

予習と復習に，各々授業時間相当の時間をあてて学習すること。

◆全学年を通しての関連教科

第2学年後期 発生学 [顎顔面発生学]

第4学年前期 矯正・小児歯科学演習 [専門歯科学]

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		9.11	5	1. 小児の基本的	・小児の診察時の対応の基本・年齢	白川 哲夫	E-1-1) ①診

				な診察法 (教1) pp.124-136	別対応について説明できる。 ・小児の歯科治療における恐怖心への対処方法を説明できる。		察、検査及び診断に必要な事項を列挙できる。 E-4-2) ⑩小児患者の対応を説明できる。
2		9.18	5	2. 小児の薬理的特性と薬物療法 (教1) pp.136-140 3. 小児の診療の流れ (教1) pp.141-149	・小児患者に対する薬物の投与方法および薬用量の算定法を説明できる。 ・小児の診療の流れを説明できる。	白川 哲夫	C-6-3) ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 E-4-2) ⑩小児患者の対応を説明できる。
3		9.25	5	4. 小児歯科と医療安全 5. 災害と小児歯科保健・医療 (教1) pp.150-156, 356-359	・小児歯科臨床で発生する可能性のある医療事故や偶発症と、それらに対する予防法と対応法を説明できる。 ・災害時の歯科保健・医療活動について説明できる。	白川 哲夫	A-6-1) ①医療上の事故等の発生要因（ヒューマンエラー、システムエラー等）を説明できる。 A-6-1) ②医療上の事故等に対する防止策を説明できる。
4		10.2	5	6. 小児の局所麻酔法 7. 乳歯抜去 (教1) pp.177-181, 285-290	・局所麻酔による小児の歯科治療での疼痛コントロール法を説明できる。 ・乳歯抜去の術式と留意点について説明できる。	白川 哲夫	E-1-4)-(3) ⑤局所麻酔の実施法と合併症（偶発症）を説明できる。 E-1-5) ①抜歯の適応症と禁忌症（相対的禁忌への対応及び小手術の適応症と禁忌を含む）を説明できる。

5		10.9	5	8. 小児の齲蝕治療 (教1) pp.181-221	<ul style="list-style-type: none"> ・ラバーダム法の利点を説明できる。 ・乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の考え方と方法を説明できる。 ・乳歯と幼若永久歯の歯内療法 of 考え方と方法を説明できる。 	白川 哲夫	E-4-2) ②乳歯と幼若永久歯の齲蝕の診察、検査と診断を説明できる。 E-4-2) ③乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的、種類、適応症、手順及び留意点を説明できる。
6		10.16	5	9. 小児の口腔保健 10. 児童虐待と歯科医師の役割 (教1) pp.338-356 「平常試験」 第1～6回で講義した内容について遠隔による試験を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・小児期の歯科疾患の予防の考え方、ならびに定期健康診断の意義を説明できる。 ・母子保健の重要性を説明できる。 ・児童虐待と歯科医師の役割について説明できる。 	白川 哲夫	E-4-2) ①乳歯と幼若永久歯の齲蝕の特徴と予防法を説明できる。 E-4-2) ⑩小児の虐待の徴候と対応を説明できる。
7		10.23	5	11. 歯の外傷と処置 (教1) pp.237-255	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の歯の外傷の特徴を説明できる。 ・外傷の経過について説明できる。 ・歯の外傷の診断法、検査法、外傷の分類、処置法について説明できる。 	白川 哲夫	E-4-2) ⑦小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察、検査、診断及び、処置法及び予後を説明できる。
8		10.30	5	12. 歯科治療上注意すべき小児の全身疾患(1) (教1) pp.389-418	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科治療上、注意すべき小児の全身疾患について説明できる。 ・小児に多くみられる感染症とそれらに随伴する口腔病変について説明できる。 	白川 哲夫	E-4-2) ⑥小児に見られる歯周疾患の特徴と対応を説明できる。 E-4-2) ⑦小児の歯の外傷・粘膜疾患の診

							察、検査、診断及び、処置法及び予後を説明できる。
9		11.6	5	13. 歯科治療上注意すべき小児の全身疾患 (2) (教1) pp.418-431	<ul style="list-style-type: none"> ・小児期にみられる血液疾患, 内分泌疾患等に随伴する口腔病変について説明できる。 ・全身疾患を有する小児に対して安全に治療を行うための対応法について説明できる。 	白川 哲夫	E-1-5) ③小手術に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。 E-4-2) ⑫口腔習癖が歯列・咬合に及ぼす影響を説明できる。
10		11.13	5	14. 口腔軟組織疾患と歯周病変 (教1) pp.222-236, 256-275	<ul style="list-style-type: none"> ・小児にみられることの多い口腔軟組織の病変について, その種類と特徴, 治療法を説明できる。 ・小児の歯周病変の特徴を説明できる。 	白川 哲夫	E-6 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。
11		11.20	5	15. 小児の外科処置 16. 口腔習癖と除去法 (教1) pp.285-296, 313-318	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の口腔内小手術の基本手技を説明できる。 ・口腔習癖と歯列・咬合異常の関係を説明できる。 ・口腔習癖の除去方法について説明できる。 	白川 哲夫	E-6 ②医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。
12		11.27	5	17. 障害児・者の歯科治療 (教1) pp.360-374, 382-388	<ul style="list-style-type: none"> ・心身障害の種類と顎口腔所見を説明できる。 ・障害と歯科治療との関わり, 運動・姿勢の保持, 行動管理の基本的な考え方を説明できる。 	武井 浩樹	E-5-2) ①障害者の身体的、精神的及び心理的特徴を説明できる。
13		12.2	4	「平常試験」 第7～12回で講義した内容を中心に、第1回からの	第4実習室ならびに第5実習室にて、定期試験と同様の形式で平常試験を実施する。		

				講義について試験を行う。			
14		12.4	5	18. 有病小児・障害児への歯科的対応の実際 (教1) pp.124-135	・地域における有病小児ならびに障害児の歯科医療の取り組み, ならびに障害者歯科医療の社会的ニーズについて説明できる。	土岐 志麻	E-5-2) ③障害者における歯科治療の特殊性を説明できる。
15		12.11	5	19. 重度障害者に対する全身と口腔の管理 (教1) pp.374-382	・障害者コロニーでの健康管理の概要, ならびに歯科医療の重要性について説明できる。 ・脳性麻痺など, 特殊なケアを必要とする患者の口腔の問題と対応方法について説明できる。	内田 淳	E-5-2) ④障害者の口腔ケア及び口腔衛生指導を説明できる。
16		12.18	5	20. 小児の発達心理 (教1) pp.374-382 「」 第14～16回に関する課題についてレポートの提出を求める。 課題と提出期限は当日通知する。	・小児の行動の特徴について, 発達心理面から説明できる。 ・さまざまな発達障害の特徴と対応法の基本を説明できる。	松野 俊夫	E-5-2) ②障害者の行動調整(行動管理)と歯科治療に必要な注意点を説明できる。

